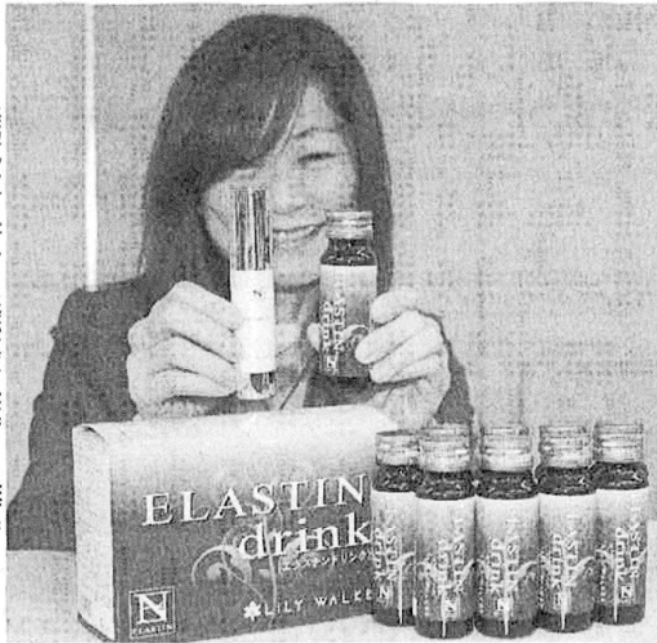


美容飲料(右)と美容液(左) 県庁で



# エラスチンで ハリのある肌

三重大准教授・宮本社長

## 美容飲料など開発

血管再生研究、技術を応用

再生医療材料開発の「細胞外基質研究所」(津市南が丘三丁目)の宮本啓一社長は三十一日、県庁で記者会見し、研究成果を活用した美容飲料と美容液を開発したと発表した。細胞を取り囲むタンパク質のうち、コラーゲンを主成分とする商品が多いが、エラスチンを主とする商品は初めてという。「ハリのある肌を生み出す」とアピールしている。

### 主成分で商品化は初

宮本社長は三重大大学院工学研究科准教授で、同社を平成十七年に起業。細胞を包む細胞外基質と呼ばれるタンパク質のうち、肌や血管の組織の伸縮性と弾性を担うエラスチンに着目。老化で失われると、しわがでる。自由に成形加工できる技術の開発に成功し、血管性疾患の治療や

同社のエラスチン製造技術を用いて昨年三月から、リリーウォーカー社(津市海岸町、西村友理社長)と共同で商品化に着手。今年一月十四日に美容飲料「エラスチンドリンク」(三百十四円)の販売を、楽天サイト「エラスチンのお店」で開始した。三月上旬にはエラスチン美容液「エレソ・ドゥ・リス」(八千九百二十五円)の販売を始める予定。

県の中企業販路開拓支援事業に採択され、三月十四日から東京ビッグサイトで開かれる健康博覧会2012に出展し、販路拡大に努める。宮本社長は、「研究用材料として三重大以外の大学医学部にも取引があるが、人工血管をつくる研究開発費はかなり掛かる。一般商材で資金が回れば」と話していた。(奥山隆也)